



人類はひとつ 世界中に友情の橋をかけよう

MANKIND IS ONE - Build Bridges of Friendship Throughout the World



会長 中江 亮 幹事 佐藤元伸 副会長・クラブ奉仕 川村徳男 職業奉仕 嶺岸光吉 社会奉仕 山口徳之助 国際奉仕 黒谷正夫 青少年奉仕 津田晋介

出席報告：会員75名 出席55名 出席率73.33% 前回出席率77.33% 修正出席68名 確定出席率90.67%

会員スピーチ

テレビと精神衛生

佐々木 喆 彦 君



「衣食絶って礼節を知る」という言葉がある。現在の社会状況は、吾が国の長い歴史の中でもかつて経験したことのない程豊かな生活を過しているが、その中で特に青少年の精神の荒廃が指摘され、青少年非行の増加が憂慮すべき状況にあることは御承知の通りであります。

この精神の荒廃は、一体どこに原因があるのか。即現代の人間の精神構成に影響を与えてきたのは何であるかを考えてみたい。

青少年の健全育成は、家族と学校と地域社会のバランスのとれた教育力の協調提携が必要であるとされているが、ここでは主に家庭を中心にその生活に大きな影響を与えているTVの問題を取り上げてみたい。

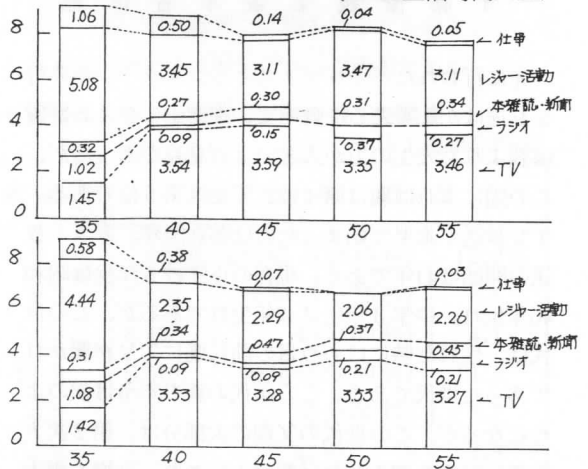
第1図は、昭和35年から5年毎にNHKで調査した生活時間調査である。特徴的なことは、レジャー活動、遊びの時間が少なくなったことであり、更に仕事の時間の著しい減少である。TV視聴の時間はやや減少しているが、生活時間に占める率は大きい。又、ラジオを聞く時間の増加は、深夜のDJのためで、益々増加の傾向にある。

その結果第2図に見られるように起床、就寝時間への影響となって現われてくる。

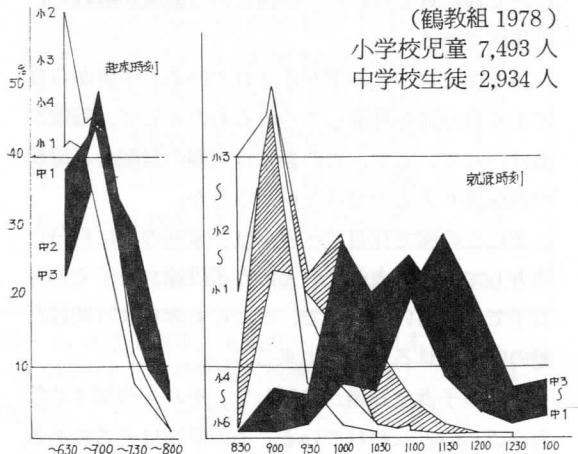
起床時間の図では、小学校と中学校生活との差に注目していただきたい。更に就寝時間では、中学生

においてその差が顕著になる。その結果中学生の20%に及ぶ生徒が朝食抜きで登校する結果となる。TV、ラジオの存在は青少年の精神の構成に大きな影響を及ぼしている。

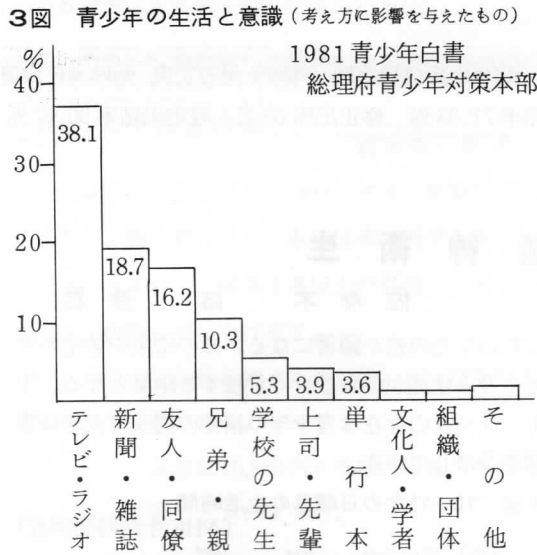
1図 10~15才の日曜日の生活時間 (NHK生活時間調査)



2図 鶴岡市内小中学校生活環境調査



第3図をご覧ください。青少年の意識、物事の考え方に影響を与えているものの第1位はTV・ラジオである。



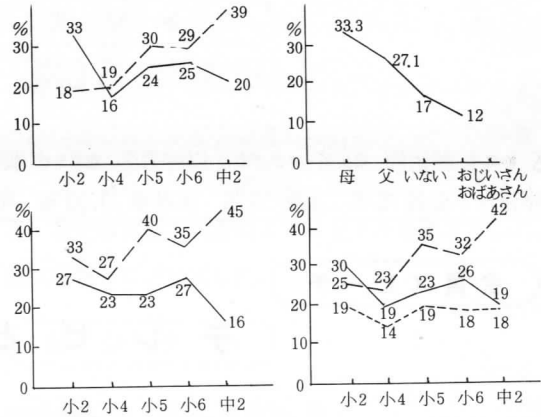
先に行われたパネルディスカッション「少年非行を私達はかく考える」の中で、中学生に与える影響は親よりも先生の方が大きいとの意見があったが、この図によれば親は第4位、先生は第5位である。TV放送が本県で始まったのは昭和34年。カラー放送の開始は41年である。現在の小学校6年生は昭和46年生れ。中学3年生は42年生れであるが、この世代は、生れた時にはもう目の前に既にTVが置かれてあった世代である。この年代の親の年齢は次のようになるが、この世代の父親の大部分は、第2次大戦後に父権を喪失した父親達といわれ、父権を喪失した父親に育てられた子供達という表現がされている年代である。

第5図には、この事が示されている。子供から見てよく自分達を理解してくれるものとして、母親があげられているが、この裏には父親の無関心と母親の過保護があるのではないだろうか。

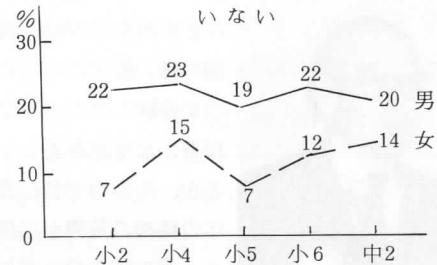
更にこの図で注目すべき点は、家庭の中に自分に味方してくれる人がないという子供達が男子で20%女子で14%もいることで、ここにも非行又は問題行動の関連を見ることが出来る。

現代の子供は知識が先行して、それを理解する能力は乏しいと云われている。その原因はどこにあるのであろうか。“三つ子の魂百まで”という言葉が

5図 家族の中で私に一番味方してくれる人は



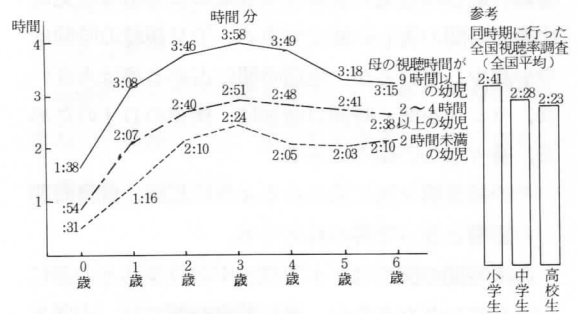
家族の中で味方をしてくれる人がいないと回答したもの



あるが、人格の形成に最も重要な時期は、生れてから3才～5才頃迄といわれているが、この時期の子供と母親のTV視聴を第4図及び第6図に示してある。第4図は母親との関連で、第6図は1日の生活時間の中での時間を表わしている。

昨年北九州市小児保健研究会で、生後2ヶ月で42%の親が、生後3ヶ月で61.6%の親が子供にTVを見せはじめているとの調査結果が報告され、更に授乳中にTVを見せている親は60.8%、乳を飲みながらTVを見ている子供が19.6%もいることも報告された。生後5ヶ月という時期は、幼児が自己主張を見せる第1段階の転換期であるといわれ、この時期

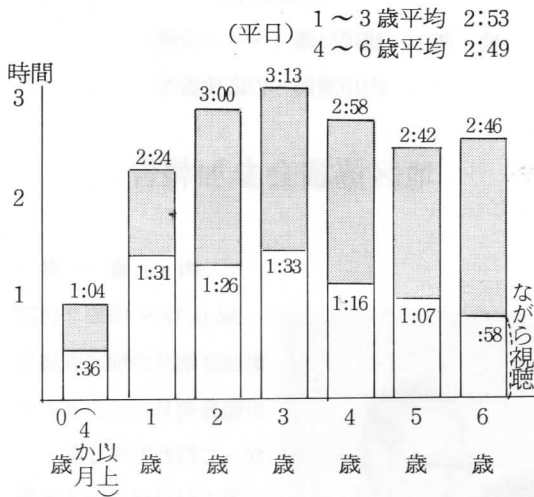
4図 母の視聴の長さ別、幼児の視聴時間(平日)



NHK放送世論調査所調「幼児の生活とテレビ」

6図 幼児のテレビ視聴時間（11月・首都圏）

NHK放送世論調査所「幼児の生活とテレビ」調査



に幼児にもっとも必要なものは、授乳と同時に与えられる母語である。この母語は幼児の精神構成に多くの影響を与えているとすれば、この状態は決して

好ましいものとはいえない。

Bグループにおける提言は、この結果からみて単に小・中学生に及ぼすTVの影響だけではなく、幼児期を含めての問題として取り上げられなければならない。

TVは、精神形成に及ぼす影響だけでなく、健全な肉体を作るべき食生活の面にも影響を及ぼしている。子供が好む食卓の献立はTV、CMの影響が大きい。清涼飲料、スナック食品、レトルト食品等のCMは表1に見られるように、CMの上位を占めている。その結果、勿論この事だけが原因ではないが、子供達の体に変調が見られる事も又、事実である。背柱異常、骨折しやすい子供の多い事、虫歯の多い子供が多い事との関連がないとは云えないのである。

Eグループに於ける指摘は、この事を指しているのではないか。

以上、青少年の健全育成について多くの要因の中から、特に家庭教育に影響を及ぼすものとして、TVをとりあげて考察を行なった次第である。

表1 子どものゴールデンアワーに放映されているテレビ広告（CM）の業種別CM本数・時間量

— 4局1週間合計 —

分類No.	業 種	C M 本 数		放 映 時 間 量	
食 品	1 おやつ・菓子	405本	13.6%	7,605秒（2時間 6分 45秒） 12.9%	
	2 ファースト・フード	278	9.3	5,010 （1時間 23分 30秒） 8.5	
	3 アルコール飲料	128	4.3	2,430 （ 40分 30秒） 4.1	
	4 その他食品	355	11.9	6,510 （1時間 48分 30秒） 11.1	
5	玩 具	185	6.2	3,330 （ 55分 30秒） 5.7	
6	医薬品・健康食品	134	4.5	2,820 （ 47分 ） 4.8	
7	衣類・身装品	87	2.9	2,235 （ 37分 15秒） 3.8	
8	日用雑貨	322	10.8	6,135 （1時間 42分 15秒） 10.4	
9	家電・精密機器	494	16.6	9,270 （2時間 34分 30秒） 15.8	
10	住宅・車・家具	182	6.1	3,975 （1時間 6分 15秒） 6.8	
11	金融・サービス・レジャー産業	210	7.1	5,565 （1時間 32分 45秒） 9.5	
12	番組宣伝・映画・出版物	156	5.3	2,835 （ 47分 15秒） 4.8	
13	その他（農業他）	38	1.4	1,065 （ 17分 45秒） 1.8	
合 計		2,974	100.0	58,785（16時間 19分 45秒） 100.0	

注） 調査期間及び調査対象は、1979年11月18日～24日の1週間、東京キー4局（日本テレビ、TBSテレビ、フジテレビ、テレビ朝日）午後5時～8時の時間帯に放映されたすべてのCM

— FCT子ども向けCM内容分析調査報告No.1「テレビコマーシャルと子どもたち」
（子どものテレビの会発行'80年）より—

会長報告

中江亮君

- 本年度は会員の皆様のご協力をもちまして今日まで漕ぎつけて参りました。心から感謝を致します。愈々6月28日の最終例会だけとなりましたが、当日は例会場と時間を変更して、夜の例会という事になっておりますが、1年間ご苦勞談等でご歓談を願って、1982-83ロータリー年度の鶴岡クラブのご用おさめとしたいと考えていますので、100%例会を再現するお気持ちで、是非全員のご出席をお願い出来ましたら有難いと思います。
- 本日は次期会長及び部門担当理事の地区協議会のご報告がありますので、これから拝聴したいと思います。
- 月信13号の9頁に台中港区姉妹クラブ訪問の私の記事が掲載されておりますので、お読み頂ければ幸いです。

幹事報告

佐藤元伸君

1. 会報到着 台中港区R.C. 遊佐R.C.
2. R.Y.L.A.のレポートが鶴岡西R.C.より到着
3. 電電公社さんよりテレトピアが到着
4. 日中友好の新聞「日本と中国」が到着
5. 例会変更のお知らせ
温海R.C.
日時 6月27日(月) 点鐘 18時
場所 越後屋旅館
尚、17時より熊野神社の清掃作業を行なった後
登録料 2,000円
6. 立川町観光協会・最上川夏まつり実行委員会より、「ミス最上川」の推薦依頼が参っております。
7. 鶴岡「小さな親切の会」より鶴岡公園の清掃奉仕への協力お願いについて
日時 58年7月10日(日)

午前7時より9時まで

(小雨決行)

場所 鶴岡公園(メイン会場)

内川清掃への応援参加

地区協議会参加報告

内山喜一君

58.6.18~19の2日間

第253地区の地区協議会が福島南R.C.のホストとなって行われました。

第1日目は、ホテル辰巳屋に於て次年度分区代理会長幹事会が開催され田中ガバナーエレクトの



国際会議に於る体験談に深く感動を受けました。

また、ターゲットの“みんなにロータリー みんなに奉仕を”の解説には、次年度の意欲的な活動を示唆されたものと感銘を受けました。

第2日目、19日は本会議場を福島県文化センター分科会を桜の丘短大、緑ヶ丘学園の2校に当てまして、石黒ガバナーの挨拶、田中ガバナーエレクトのともに「奉仕する我々の年度」と題した講演があり、午後の部は3つの会場にそれぞれ分かれて分科会が開催されました。午後3時再び本会場に集まりまして、分科会の報告があり、石黒ガバナーから大会の所感、田中ガバナーエレクトより謝辞、次いで次期開催ホストクラブ、山形南R.C.会長の挨拶がありまして、大会を終了しました。尚、大会の詳細については、今ここで申し上げると長くなりますので会報をもってご案内申し上げます。

クラブ奉仕担当理事 佐藤順治君

次期クラブ奉仕担当理事として、地区協議会に出席し、桜の聖母短大の会場の分科会に於て、

リーダー ガバナーノミニー 斎藤利世(山形)
副リーダー 県北分区代理 石森健三郎(福島南)
ク 置賜分区代理 佐藤幸雄(白鷹)
ク 次期ロータリーの友小委員会委員長
脇屋隆治(福島)

により、午前(11.00~12.30)はリーダー、副リーダーよりお話があり、午後(13.00~14.30)は質疑応答でした。午前、

1. 斎藤リーダー

・クラブ奉仕の数多い各委員会を関連ある委員会毎の小グループに分け、緊密な連絡をとりながら計画を実行してはどうか。

イ. 会員増強・会員選考・職業分類・ロータリー情報

ロ. 出席・親睦・S.A.A.プログラム

ハ. 広報・会報

2. 石森副リーダー

・会員増強について

商売している場合、全然セールスをしないで売り上げが20%位減少する。それで年間20%以上の得意先を開拓しなければ駄目になってしまう。ロータリーもまた同じように、会員を増強しないと年間8%~10%位減少する。

例えば50名のクラブであれば、4~5人位が自然減となるので、それ以上の増強をしなければいけないことになる。

3. 佐藤副リーダー

・出席率について

近年不況のためか欠席が多くなっているが、そもそもロータリーの初めは、不況を乗り切るということを目的として出来たものである。

ロータリーは職業別の集団であるから、会員名簿を利用し、メイクをしながら商売も出来るのではないかと思う。出席率も85%以上であればまずまずではないだろうか。

4. 脇屋副リーダー

イ. 広報について

活氣的に充実を図る

ロ. ロータリーの友について

過日ロータリーの友についてアンケートをお願いしたのですが、76クラブ中35クラブ位からしか回答がなかった。その内容細部については後日各クラブに送付する予定である。

午後(13.00~14.30) 午前中のことなど質疑応答

1. 会員増強で福島南R.C.は30名から50名にした秘話はどうかとの質問に対して、福島の南地区は発展地であり、キャノン、松下電器など中央の大企業が進出倍増しており、根気よく頼みこんだためと思われる。又、地の利を活用したとも云えるのではないか。

2. 出席率85%以上であればよいのかとの間に対し、地区全体としては他地区より少しでも高くしたいのが人情であり、100%にならなくとも成る可く高くなるよう奨励している。又、仮に除名に値する出席率であっても、いちまつの望みがあれば、友愛、親睦をもって除名を成すべきでないし、又逆に全く希望がないならば、除名するのも止むを得ないと思う。

3. 1クラブの会員数はどの位が適当かとの間に対し、場所などの問題もあり、回答出来ない。

(地区 76クラブ3,619人 1クラブ当47.61人)

4. 山形西クラブ現在90名で、次年度は100名を目標に増強したいと言っているが、人口対比についてはどうかとの間に対し、何等関係がないと思う。

5. 無届欠席の為食事が無駄になるが、どうすれば良いかとの間に対し、余目クラブの回答で、例会の前日、全会員に電話連絡して出欠を確める為、大変効果を挙げている由。

6. リーダーの助言

プログラムの編成については、分区代理にスピーカーの斡旋を依頼するのも良いと思う。

7. ロータリーの友に投稿しても、掲載するか、し

ないか返事がないのはどうしたのかとの間に対し
今後は必ず返事を出す。尚、投稿する場合は、必
ずガバナー事務所を通してもらいたい。

以上、簡単にご報告いたします。

米山奨学会委員会

鈴木弥一郎 君

米山奨学会委員会より、今ロータリー年度最後の
ご協力をお願い致します。本日は米山奨学会募金の
日でありますので、何卒1\$以上の募金をお寄せ下
さるようお願い申し上げます。

尚、本年度は会員の皆さんより厚いご支援を戴き
厚く御礼申し上げます。

又、本日の募金は16,810円と多額のご協力を戴き
まして誠に有難うございました。

スマイル

青少年委員会、ローターアクト、インターアクト
の合同委員会の反省会会費の残金について、三井徹
君、藤川享胤君、中田敏和君、秋野忠君、手塚林治
君、若生恒吉君の各委員よりスマイルを戴きました。
誠に有難うございました。

ビジター

余目R.C. 佐々木尚伸 君
温海R.C. 佐藤五右エ門君・阿部一太君
鶴岡西R.C. 井上 彬君・児玉光弥君
佐藤成生君・佐藤 拡君
(今週の担当者 松田 貞夫)

職 場 紹 介

社 名 庄内交通株式会社
資本金 2億4千万円
代表者 社長 友野 重 也
専務 本 山 嗣

当社は、昭和18年10月1日、太平洋戦争のさなか
地方陸運事業の一元化という時局の要請に即応し、
5会社統合による、資本金150万円をもって設立さ
れたものであり、本年は創業40周年目にあたる。

現在、従業員数780余名により、一般乗合旅客事
業を中心に、貸切旅客事業、自動車道事業、ビル事
業、広告事業、ガソリンスタンド事業などを展開し
ている。

関連会社は、本年2社を加え合計12社となり、従
業員の総数は1,300名を超える。

当社の、また当社関連会社グループの基本理念は

「地域社会とのより密接な連帯」にあり、「積極的
な地域開発と生活提案型事業の推進」を実践テーマ
にしての地域社会発展への貢献を使命と考えている。

多角的な事業展開にあたり、社員には、すべての
事業が本業となることの意識を植え付け、とりわけ
当社グループの事業は、ほとんどがサービス業であ
ることから、社員1人ひとりが地域の人々、利用者
との対話を進め、そこから生れる信頼関係の中で、
精一杯のサービス・奉仕を続けてゆくことを働きが
いとさせ、日々の努力を続けさせている。

交通とは、もはや時間的短縮にのみ機能するの
ではなく、近未来の社会を作りあげるであろう情報伝
達にも機能してゆくことを認識し、今後とも創立工
夫を進めながら、地域社会発展の事業を続けていき
たいと考える。

地域の人々のご指導を礎に、不断の努力を積み
重ねて、信頼される、愛される企業にしていきたい
と考えるものである。